

自己点検・評価での課題への対応

部局等 語学センター

自己点検・評価での課題等 (令和5年1月 実施)	対応策・対応状況・部局長の意見等
<p>基準番号：3-1</p> <p>英語教育部において、現在、8名の非常勤講師に英語科目を担当いただき人員不足を補っているが、日本語教育部のコースの運営責任者（コーディネーター）のような制度が整っていないため、また、この数年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、全学の英語教育の方針が非常勤講師にまで浸透しているとは言えない。また、非常勤講師の人員配置業務については、全学の共通教育委員会の英語担当委員に多くの部分を負担いただいている。</p>	<p>今後は、英語教育部の常勤教員によるコーディネーター制度を採用するなど、共通教育の英語教育の総括組織としての自覚を高めて、責任を持って全学の英語教育を継続改善していく必要がある。</p>
<p>基準番号：3-5</p> <p>大学のHPから語学センターのHPに到達するまでに手間がかかったり、ニュースやイベント紹介がタイミングよくアップデートされていなかったり、HPがうまく活用できているとは言いがたいため、今後は効果的に活用できるようにHPの構成を検討する必要があることが課題である。</p>	<p>令和4年4月に、語学センターのHPをリニューアルした。LDCやセーレン グローバルハブの利用ガイドを中心に、リスニングやスピーキングの上達方法、語学検定の対策方法、UPASSを活用した学習サポート、セーレン グローバルハブでの国際交流の紹介を行っている。同内容のパンフレットも作成し、新入学生オリエンテーションで全学生に配布している。引き続き、語学センターが実施する様々な活動やイベントを、語学センターHPを活用し、情報発信していく必要がある。</p>
<p>基準番号：7-1</p> <p>語学センターの管理運営体制並びに事務組織については、概ね適切に機能し運営されている。平成29年度に、日本語教育部が国際センターから語学センターに組織換えした経緯があり、日本語・英語各教育部が個別の体制となっていることから、効率的な運営ができていると評価する。一方、共通の事項についても上述の両方の会議で別々に決定していることから、語学センターとしての管理運営体制としては、十分であるとは言いがたい。以上の点で運営体制の改善が課題であると評価する。</p>	<p>今後は、センター長のリーダーシップの下、日本語教育部と英語教育部それぞれに実質的な管理・運営を担う副センター長を設けることで、機動的かつ弾力的に対応できる体制にするとともに、連絡体制を強化して、語学センターの設置目的を効率的・効果的に達成できる組織体制とする必要がある。</p>

